

2025 年度第 2 回研究助成委員会 議事要録

日 時 2025 年 5 月 15 日（木）10 時～11 時 15 分

開催方法 オンライン会議

出席者 平井 光世（立教大学）、井上 昌彦（関西学院大学・会長校）、
渡来 達也（中央大学）、黒崎 知洋（東洋大学）、辺見 学（文教大学）、
上畠 宏美（福岡大学）、武藤 純一（大阪商業大学）、
宮杉 浩（京都外国語大学）

陪 席 服部 耕一郎（関西学院大学・会長校事務局）

配付資料

研究助成委員会委員一覧（2025～2026 年度）	報告事項 1_①
私立大学図書館協会研究助成規程	報告事項 1_②
研究助成の審査にあたっての研究助成委員会および東西合同役員会での申し合わせ事項	報告事項 1_③
研究助成委員会 審査ガイドライン	報告事項 1_④
2025 年度第 1 回研究助成委員会 議事要録	報告事項 1_⑤
2024 年度研究助成特別会計決算	報告事項 2_①
2025 年度研究助成特別会計予算	報告事項 2_②
2024 年度研究助成中間報告について	報告事項 3_①②
2023-2024 年度研究助成委員会活動報告について	報告事項 4
2025 年度活動方針について	報告事項 5
今後のスケジュールについて	報告事項 6
2026 年度研究助成（2025 年度申請）について	協議事項 1_①～⑤
応募の促進について	懇談事項 1

[はじめに]

委員自己紹介

平井委員長より開会の挨拶があり、各委員より自己紹介があった。

[報告事項]

1. 2025 年度研究助成委員会について

平井委員長より、配付資料（私立大学図書館協会研究助成規程、研究助成の審査にあたっての研究助成委員会および東西合同役員会での申し合わせ事項、審査ガイドライン）に

もとづき、研究助成委員会の概略と活動内容が説明された。併せて2025年度第1回研究助成委員会 議事要録が共有された。研究助成の目的を共有し、2025年度もこれらにもとづき募集および審査を実施したい旨の説明がなされた。

2. 2024年度研究助成特別会計決算および2025年度予算について

平井委員長より、配付資料にもとづき説明がなされた。本件については、2025年度第1回常任幹事会で承認されており、本委員会では報告となる。研究助成特別会計予算の位置づけとしては、協会の予算は一般会計と特別会計に分かれており、研究助成委員会の会計は特別会計として計上されていること、繰越金も含め独立して決算される予算である。

また前期に委員長を務めていた委員より、助成金は単年度あたり60万円以内と定められていることが補足された。

3. 2024年度研究助成中間報告について

平井委員長より、2024年度研究助成として2023年度に申請があり採択された研究助成「『源氏物語』鎌倉期写本の書誌的調査及び解題目録」（個人研究・天理大学附属天理図書館）について、中間報告が共有された。本研究は、2024年度～2025年度の2年にわたる研究であり、2025年度は進捗報告となる。2024年度の研究内容としては、（1）『源氏物語』鎌倉期写本の所蔵先及び閲覧可否の調査、（2）当該資料の書誌的調査、（3）調査した当該本の翻刻・本文比較、の3点を実施した。2025年度においても、引き続き（2）と（3）を実施しつつ、解題目録の編纂を行う予定である。なお、本研究については、研究終了後1ヶ月以内に研究報告書を提出し、2026年度の総会・研究大会で研究成果の発表を行うこととなっている。

4. 2023-2024年度研究助成委員会活動報告について

前期委員長より、配付資料にもとづき説明がなされた。

- ・近年応募件数の減少もあり、応募促進の取り組みを共通の課題として活動を行った。7月の事前告知やメール配信、チラシの作成、追加募集の実施検討等の対策をとった。結果として、締切日の消印有効にて1件の応募があったが、これを機に追加募集実施への影響を考慮し、2024年度からは締切日「必着」に変更した。
- ・2024年度研究助成（2023年度申請）は1件の応募（個人研究）があり、審査の結果、採択として東西合同役員会に答申することとなった。2025年度研究助成（2024年度申請）は、1件の応募（機関研究）があり、審査の結果、不採択として東西合同役員会に答申することとなった。
- ・課題としては、応募減少への対策のほか、審査の際の留意事項として、申請内容をより理解して審査できるように、別添資料について明記するなど様式の見直しを行うことや、申請内容について「研究」と「実務」の判断の難しさが挙げられる。

5. 2025 年度活動方針について

平井委員長より、配付資料にもとづき、以下の説明がなされた。

資料は、当協会全体の事業計画である。研究助成委員会については、「応募の減少、および応募が無い状態が続いている。応募の促進について引き続き議論を行う。」とされており、これに沿って活動を進めたい。

6. 今後のスケジュールについて

平井委員長より、配付資料にもとづき、以下の説明がなされた。

研究助成委員会は、おおむね例年どおりのスケジュールとした。今年度も第3回、第4回の開催を予定している。また必要に応じて、随時委員会の開催やメールでの打合せを行いたい。まずは今後の委員会の開催方法について意見をいただきたい。

委員から、開催方法について、一度くらいは対面で開催してはどうかという提案が出され、他の委員からも近年オンライン開催が主流となっているが、対面での議論の有効性について発言がなされた。協議の結果、審査に関する議論を行う第3回研究助成委員会を、対面で立教大学にて開催することとなった。また前期委員長からは、委員会の開催回数は年度によって異なり、応募状況によっては第4回委員会の開催は不要になるかもしれないとの補足がなされた。

7. その他

特になし。

[協議事項]

1. 2026 年度研究助成（2025 年度申請）について

平井委員長より、配付資料にもとづき説明があり、以下の議論を経て、別添に関する追記を行うことで原案を承認した。

- ・「2026 年度【2025 年度申請】研究助成応募要領」等については、ほぼ前年度を踏襲し、年度表記と募集開始、締切日の日付を更新した程度である。
- ・委員より、前期の報告事項に、研究計画書に必要な応じて別添資料を提出してもらおうという意見があったが、研究計画書の「8. 研究の目的・計画・方法」の欄外に追記を行ってはどうかとの提案があり、協議の結果、追記を行うこととなった。

2. その他

特になし。

[懇談事項]

1. 応募の促進について

標記について懇談を行った。主な意見は、以下のとおりである。

- ・夏の期間に、研究助成の申請について検討できるように、7月頃に事前告知を行う。
- ・事前告知にはチラシを活用していく。まずはチラシを更新した案を共有する。
- ・実際のところ、研究助成の応募がない、発表者がいないという現状であるが、各大学図書館とも職員数が少ない状況であり、研究助成に応募するというのはなかなか難しいだろう。応募があった際には、このような事情も踏まえつつ、議論していきたい。
- ・期限を設けて、応募の促進に関するアイデアについてメールにて意見交換を行う。

2. 研究助成委員会 議事要録の取扱いについて

会長校事務局の服部オブザーバーより、研究助成委員会の議事要録を私立大学図書館協会のホームページに掲載してはどうかとの提案があった。現状としては、他の委員会はすでに議事要録を載せているが、研究助成委員会は議事一覧（議事次第）のみを載せている。協議および確認の結果、研究助成の審査に係る内容については、協会賞審査委員会の議事要録を参考に「非公開」とすることで、今年度から研究助成委員会も議事要録をホームページに掲載することが決まった。

以上